

12月号 みらいふ からの ラフレター

の 疑問 どうしたら防げるの？ 高齢者の交通事故 !?



1、 高齢者の事故は増えているの？

～交通事故死者数に占める高齢者の割合は約半分

平成 24 年の 1 年間に交通事故で亡くなった方は約 4,400 人。そのうち、65 歳以上が約半数となっており過去最悪の割合を占めています。

2、 高齢者に多い歩行中や運転中での事故原因は？

～「意識と行動のミスマッチ」など高齢者特有の事情が

高齢者が遭いやすい交通事故には、いくつかの特徴がみられます。ここでは、歩行中、運転中に高齢者に多く見られる事故のパターンやその原因について説明します。

☆歩行中の事故

ケース 1：横断途中で信号が「赤」に・・・

「青」信号で横断歩道を渡り始めたのに途中で「赤」に変わってしまい、事故に遭ってしまうケースです。高齢者本人は信号が青のうちに渡りきれぬつもりですが、実際に歩く速度は本人が思っているよりも遅く、時間がかかってしまうためです。

ケース 2：後から現れた車に気を取られて・・・

道路を横断しようとしたときに、

☆運転中での事故

高齢ドライバーによる死亡事故の主な原因として、アクセルとブレーキの踏み間違いなどの「運転操作不適※1」や、「漫然運転※2」「安全不確認」があります。

ほかにも警察庁によると、重大事故につながる高速道路での逆走は、7 割以上が高齢ドライバーとなっています（平成 22 年 8 月～平成 24 年 9 月までの 2 年間）。

運転歴何十年というベテランが多いにもかかわらず、高齢ドライバーが事故を起こしてしまうのは、歩行者のケースと同じく、止まれると思ったポイントで停車できない、一つの事象にとらわれ、ほかの情報を見逃すなど「意識と行動のミスマッチ」や慣れが影響しています。

3、 高齢ドライバーが安心して運転するには

～日頃からの安全運転と、いろいろな講習会などを利用して運動能力のチェックを高齢ドライバーが増えている中、高齢者が交通事故の「加害者」となるケースも増えています。安全な運転を心がけるために、次のようなことに気をつけましょう。

高齢ドライバーの皆さんへ

加齢による身体機能の低下によって、ハンドルやブレーキ操作が遅れて事故を起こすこともあり得ることを認識したうえで、早めのライト点灯や安全な速度での運転を心がけましょう。また、交通安全講習会や実技研修、運転適正検査なども活用して自分の運転能力をチェックしましょう。

70 歳以上のドライバーの方には、次のような制度も設けられていますので、ぜひ活用してください。

運転免許更新時の「高齢者講習」の受講

70 歳以上の方は運転免許更新の際に「高齢者講習」の受講が義務づけられています。75 歳以上の方は高齢者講習の前に、「講習予備検査（認知機能）（※）」も義務づけられています。

※検査の結果、「記憶力・判断力が低くなっている」との結果であっても、運転免許証の更新はできますが、信号無視や一時不停止などの特定の交通違反を更新の前に行っていた場合または更新後に行った場合は、警察から連絡があり、専門医の診断を受けるか主治医の診断書を提出することになります。認知症であると診断された場合には、免許が取り消されます。講習予備検査について詳しくは、警察庁「講習予備検査（認知機能）について」をご覧ください。

「高齢運転者標識（高齢運転者マーク）」の表示

70 歳以上のドライバーが運転する車に表示することができます。周囲の自動車運転者は、マークをつけた自動車に配慮することが義務づけられます。

